

第6回 伊勢湾漁業影響調査委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成28年2月26日 14:00～17:00
2. 場 所：TKP ガ-テンシティ-名古屋新幹線口 バンケットホール7A
3. 審議内容：土砂処分場候補地およびその周辺海域が有する機能解析と生物現存量の推定について
伊勢湾シミュレーターの再現状況について
4. 委員の発言要旨
 - 様々な動物群集が逃避によって候補地及び候補地周辺に集中するのか、基礎生産、二次生産、底生生産自体が高いために候補地及び候補地周辺に集中するのか、そうではないのかを解析できるような調査・評価をやってもらいたい
 - 能動的に豊かさを求めて候補地および候補地周辺に生物が集まる仮説と、貧酸素からの逃避により受動的に集まる仮説があり、この原因として濁度や懸濁態有機炭素の対比により検討しようとしているが、漁業生物や動物プランクトンの種類やサイズ等も確認し多面的に検討してほしい。これが評価の柱になると思っている。
 - 候補地および候補地周辺は、一次生産速度や懸濁態有機炭素も高くないとみえる。しかし、豊かな海域となっているのは物質循環速度が速いからだと感じる。生物多様性が速度に関連すると思うが、この海域が本来持っている再生生産の高さなのか、外部から湧昇等によって入ってくる栄養に基づく新生産の高さなのか等、何が原因になっているのかに着目して検討を進めるべき。
 - 餌生物の多様性をどのように評価に入れ込むかは、多様性指数等の評価基準も利用したり、餌生物の重要度等を何らかの方法で重み付けし検討しなくてはならない。
 - カタクチイワシやイワシの同化率は呼吸量が入っていないため、温度を考慮した呼吸量を入れた検討が必要。
 - 計量魚探から計算した摂餌量は過小評価していると感じる。計算式の設定など精査してほしい

- 摂餌量の各考察で定数として用いている数値は、ある程度幅を持った数値であるため、±で表示してほしい
- 摂餌量の計算で用いている漁具効率や摂餌時間の値は、水温や漁獲方法により大きく変わるため、今回計算した結果は、オーダーとして合っているのかを確認するために使用することが無難かと思う
- 調査結果から算出した魚類による動物プランクトン摂食量をみると、伊勢湾シミュレーターによる摂食量の設定値は過小に感じる
- 表層・中層と底層の生態系が違うことを踏まえた、護岸の物質循環が候補地及び候補地周辺海域の生態系へ与えている効果をシミュレーションでどのように扱うか検討をすること
- 魚類の生産量の計算で用いている各数値の定義について、いろいろな考え方が混同しているため、定義を明確にした上で整理して検討すること
- 伊勢湾シミュレーターにおいて、名古屋港海域の温排水や空港島からの栄養塩の負荷を考慮しているのかどうか必要ならば計算するよう検討すること